

Ⅱ 活動報告

1 スポーツ活動

(1) 特別支援学校ボッチャ交流会

- 1 ねらい 特別支援学校でのスポーツ活動の充実をめざし、ボッチャの普及・促進を図る。
- 2 日 時 令和元年9月4日(水) 午前11時から正午まで
- 3 場 所 徳島県立21世紀館 多目的活動室
- 4 参加者 特別支援学校(2校2分校) 生徒44名
- 5 内 容

競技方法は、1チーム3名、1試合2エンドとした。参加生徒全員がボッチャをできるように、11チームに分かれて、2回戦まで実施した。

徳島県障がい者スポーツ協会の協力により、道具の準備とコート設営(じゅうたんの床にラインテープを貼り、3コート設営)を行った。また、審判や試合運営にも協力いただいた。



6 成果等

参加生徒は、自校でチームを作り、協力して試合に臨むとともに、他校の生徒とも楽しく交流を図ることができた。ねらいを定めてボールを投げたり、1球ごとに歓声が上がったりするなど、短い時間であったが、楽しむことができていた。

また、参加教員からは、楽しく交流を図るよい機会になったので、今後も続けてほしい、との意見が聞かれた。

今後も、特別支援学校の生徒が集まる機会を利用して、ボッチャをとおして交流を深める活動を企画していきたい。



(2) ボッチャ体験会

- 1 ねらい 東京2020パラリンピック競技大会の正式種目であるボッチャの体験をとおして、ボッチャの普及啓発を図る。
- 2 協 力 徳島県障がい者スポーツ協会
- 3 日 時 令和元年9月4日(水) 13:00~15:30
- 4 場 所 徳島県立21世紀館 1階 多目的活動室
- 5 対 象 特別支援学校の生徒(自由参加)と一般の方
- 6 内 容 ・ボッチャのルール説明、ボールの投げ方練習、ボッチャの試合を体験
- 7 成 果 ボッチャ交流会の会場を活用して、一般の方も参加できるボッチャ体験会を実施したところ、幼児と母親等の参加があった。ボッチャの紹介や体験により、障がい者スポーツの啓発を図った。



(3) ボッチャの伝達講習

- 1 ねらい 特別支援学校でのスポーツ活動の充実をめざし、ボッチャの普及・促進を図る。
- 2 日 時 令和元年 10 月 30 日（水）午後 1 時 30 分から午後 4 時まで
- 3 場 所 徳島県職員会館
- 4 参加者 11 名（特別支援学校教員）
- 5 内 容

伝達講習（研修報告）

国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会」に参加した教員から、障がい者スポーツの現状や障がい者スポーツの振興に係る取組について報告があった。また、各学校でのボッチャの実践について意見交換を行い、障がい特性に応じて工夫を凝らしたり、地域の学校とともにボッチャに取り組み、交流を深めたりしていることなどを話し合った。



ボッチャ実践（交流試合）

徳島県障がい者スポーツ協会の指導者からボッチャのルールの説明を受け、参加者全員でボッチャのボールを投げる練習から始めた。そして、参加教員全員が 4 チームに分かれて、交流試合を行った。繰り返しゲームをすることで、具体的なゲームの流れやルールの理解につながった。参加教員はチームで戦術を考えたり、審判を体験したりして、ボッチャへの関心を高めた。



参加者アンケートでは、「楽しみながら学ぶことができた」「定期的な講習により、より多くの教員にボッチャの魅力が伝わるといい」など積極的な意見が見られた。伝達講習を契機に、各特別支援学校でのさらなるボッチャの実践につなげた。

（４）特別支援学校におけるボッチャの実践

１ ねらい ボッチャの普及を図り、県下の全ての特別支援学校で実施する。

２ 実践内容

① 学校での実践

（視覚障がいの学校における実践）

徳島視覚支援学校（１月実施，対象：寄宿舍生 ８名）

ボッチャの歴史やルールについて簡単に説明した後，３チームに分かれ，コートの大さを縮小し，２エンドで勝負がつく短縮ゲームでリーグ戦を行った。狙うコースや投げる順番などチーム内で作戦を練りながら投球し，白熱したゲームが展開された。「思っていたより難しかった」「楽しかったのでまた皆でやってみたい」といった感想が聞かれた。



（肢体不自由の学校における実践）

板野支援学校（年間をとおして実施，対象：中学部全生徒 ４９名）

保健体育の授業では，３つのグループで実践し，正式なルールではなく，布製の的当てを使用して得点を競う楽しさを重視して取り組んだグループ，動画等で様々なスキルを知り，技術向上のために取り組みを行ったグループなど，実態に応じた内容でボッチャを授業内容に取り入れた。また，体育祭の種目や，授業参観としても実践している。



（知的障がいの学校における実践）

国府支援学校（年間をとおして実施，対象：中学部生徒 ２５名）

保健体育の授業において実施。体育館で行うほか，体育館が行事等で使えないときに，狭い場所でも行うことができるため，ボッチャをよく実施しており，生徒も大変好んで取り組んでいる。投げたりスロープを使って転がしたりする他に，蹴ったりすることも可能であるということを講習で学び，生徒に教えたところ，興味を持って挑戦していた。ジャックボールに向かって投げたり，仲間と一緒に盛り上がったり，という活動が生徒にとって楽しいようである。



阿南支援学校（１１月実施，対象：中学部生徒 １８名）

体育の授業でボッチャを行った。場所が狭かったため，特別ルールを用いて簡易版ボッチャとして行った。的のリングを１つから始め，徐々に増やして得点も複雑にしていっていった。生徒は得点を数えたり，ねらう場所を教えあったりして協力する様子が見られ，楽しんで取り組むことができた。個人戦や団体戦を行い大いに盛り上がった。



阿南支援学校ひわさ分校（12月実施，対象：小学部・中学部生徒4名）

小学部，中学部の合同学部集会でボッチャを行った。教師も含め3人ずつのチームに分かれ，計9ゲームを行った。一投ごとに歓声があがり，子どもたちは勝敗をめぐり白熱したゲーム展開を味わうことができた。ルールを理解は，ゲームを重ねるごとに定着できる様子がみられ，ジャックボールからの距離も，自分たちで計測して判断しようとする姿勢がみられた。



池田支援学校（10月，12月，1月に実施，対象：高等部生徒9名）

初回はボッチャのルールについて映像を見ながら学習した後，実際に試合を行い，ルールの理解を深めた。2回目は交流試合の練習のため，クラス対抗で2チームに分かれて時間いっぱいボッチャを楽しみながら試合を行い，ルールの理解や技術の向上を行った。3回目は交流試合を行ったこともあり，ボッチャに慣れ，各グループ戦略を話し合うなど投球の強さや球種を工夫し，チームや個人で考えながらプレーすることができた。



池田支援学校美馬分校（9月～12月実施，対象：高等部生徒8名）

週2回，保健体育の時間に実施。準備体操の後，試合形式で行った。3名1チームを5チーム作り，2コート使用して交代で対戦。（2エンドずつ）簡易的なコートを作り，生徒の実態に合わせたルールで進めた。1チームは審判係を担当し，できる限り生徒たちで試合を進められるように行った。



（知的障がい，病弱の学校における実践）

みなと高等学園（10月，11月実施，対象：高等部生徒16名）

投球練習の後，初めての生徒も経験のある生徒も，技術に大きな差はなく，楽しく試合をしていた。ルールもすぐに覚えることができていた様子で，2度3度と試合を重ねるうちに，自分たちでボールの投げ方を工夫しながら楽しむことができていた。

② 交流及び共同学習における実践

徳島聴覚支援学校（H31.3月実施，高校との生徒会の交流／R2.3.23 交流学習実施予定が休校により中止）

ルール説明，練習，試合という流れで実施した。ルールについては，短時間でも理解できるように簡略化したものを用いた。試合は2試合（1試合3エンド）実施したが，エンドを重ねるたびに上達することができた。またチームごとに話し合いを通して，様々な戦略を考え実践することで，勝敗だけでなくボッチャというスポーツを楽しむことができた。

鴨島支援学校（1月実施，吉野川市職員労働組合との交流）

毎年行っている吉野川市職員労働組合員の方との交流会でボッチャを実施した。本校の児童生徒の実態に合うように，ルールは簡素化し，また，学校で制作したランプスを児童生徒の実態に合わせて使用した。市職員の方と本校の児童生徒がペアになり，ペア戦の試合を行った。互いに戦略を相談しながら交流を深め，ゲームを楽しんだ。



ひのみね支援学校（12月実施，高校3校との交流）

4校の生徒がバラバラになってチームを結成し，予選リーグを行い，上位4チームによる順位決定戦，下位4チームの決定戦を行った。当日は，新聞社の取材も入り，いつもと少し違う雰囲気ではあったが，楽しく交流することができた。



池田支援学校（12月実施，障がい者支援施設との交流）

近隣の障がい者支援施設の利用者の方とボッチャの交流試合を行った。学校と施設でそれぞれ2チームを作り，4試合行った。あいさつの後，ルールを簡単に確認し，交流試合を楽しんだ。それぞれが点数をたくさん取るにはどうすれば良いか考えながら，投球を工夫していた。良い投球ができれば拍手がおこり，得点の発表を行うと歓声があがるなど活気のある雰囲気で交流試合を行うことができた。



みなと高等学園（9月実施，高校との交流）

両校初めての顔合わせであったが，活動をとおして緊張感がほぐれ，応援したり投げるコツを伝え合ったりして，楽しむ姿が見られた。身体能力に大きく左右されずに，誰でも楽しむことができる競技で楽しむことができた。



3 成果と課題等

（成果や期待される効果）

＜授業等での実践＞

- ・スポーツが苦手な生徒でも楽しめ，誰でも気軽に取り組める
- ・仲間とのコミュニケーションや交流
- ・ルールやマナーを守る力の育成
- ・障がい者スポーツ，パラリンピック競技の理解啓発
- ・余暇活動の広がりや生涯スポーツへのつながり

<交流及び共同学習での実践>

- ・試合中に戦略の相談やさまざまな会話ができることで、より交流を深めやすい。
- ・実態に応じて、ランプスを適宜使用することで全員が対等に試合を楽しめる。
- ・合同チームなどを作るようにするとさらに関わりが増える。
- ・挨拶や言葉遣いなどの態度面で正しく行動しようとする様子が見られるようになった。
- ・地域の方と関わる楽しさや障がい者スポーツの楽しさを知ることができた。

(課題)

- ・道具の数の確保（あればあるほど良い）
- ・コート確保
- ・より詳しいルール理解に向けてのサポートの方法等。
- ・競技方法は簡単だが、得点の入り方がやや難しく、途中の試合状況の理解が難しい場合がある。
- ・競技用ルールの理解
- ・作戦を立てることへのサポート
- ・応援の仕方や仲間への言葉掛けなども学習する必要がある。

(今後のボッチャの活用場面)

- ・障がいの程度に関係なく、誰でも一緒に取り組めるので、授業や放課後活動はもとより、体育祭等の学校行事や集会でも実施することができる。
- ・ルールもわかりやすいことから、福祉施設（高齢者、障がい者）や地域の小学校、中学校、高校との交流において取り組みやすい。

(考察)

平成 29 年度からの取組により、全校においてボッチャを実践するとともに、ボッチャをとおして地域との交流を深めることができるようになってきている。今年度は、特別支援学校間においてもボッチャ交流会を行い、ともにボッチャを楽しむことができた。

生涯親しめるスポーツとして、今後もボッチャをとおした地域との交流を継続するとともに、さらなる広がりを検討していく必要がある。また、競技としてのルールの理解も重要であり、今後は地域でのボッチャ大会等への参加を促進したいところである。

2020 年とその後を見据えて、特別支援学校を中心に、ボッチャをはじめニュースポーツ等のさまざまなスポーツにも取り組み、活動の幅を広げるとともに充実を図っていきたい。

(5) 視覚障がいのある児童生徒、聴覚障がいのある児童生徒のスポーツ活動振興

1 ねらい 他機関との連携により、スポーツ活動の充実を図る。

2 実践内容

徳島視覚支援学校（12月実施，対象：中学部，高等部，高等部専攻科生徒7名）

岡山県から、日本ゴールボール協会女子トレーナーの辻美穂子さんを講師として招聘し、ゴールボールのゴールポストの組み立て方や、コート設営の方法を指導いただいた。その後、捕球の基本動作の練習を行ったのち、ゲーム形式での活動を行った。



（成果）本校の生徒数の減少や、教員の異動に伴い、近年はゴールポストを設置してのゴールボールの授業を行った経験のある者がいなかったが、今回指導を受ける機会を与えていただいたことで、複数の教員や生徒が、ゴールポストの設営の方法を学ぶことができ、今後の授業での実施が可能になった。生徒からは、「基本動作を教えてもらうことができて良かった」と好評であった。



（課題）体育館が徳島聴覚支援学校と共有であり、外部団体への貸し出しも行っているため、非常に大型のゴールポストを、実施期間中アリーナに置いておくことへの理解が得られないと、継続的な実施が難しい。

徳島聴覚支援学校（9月～2月実施，対象：中学部，高等部6名）

徳島県卓球協会の協力を得て、理事長の藤浦哲夫氏より、1ヶ月に1回程度、部活動の時間に卓球部生徒への技術指導を受けた。

（成果）生徒一人一人の課題を指摘しながら、卓球の基本技術を中心に、分かりやすく指導していただけた。次回までの課題が指示され、1ヶ月間の練習に目標をもって臨むことができた。高等部の3名は、本年度全国聾学校卓球大会に出場した。大会前には、試合形式の練習をしながら、プレイヤーならではの留意点について指導を受けることができた。

生徒からは、「大会の前に、試合の仕方を教えてもらえて良かった。」「先生とだったら、ラリーが50往復続いた。嬉しい。」等の意見が聞かれ、定期的な技術指導により、個々の生徒のスキルアップや部活動の充実につながった。



(6) ニュースポーツをとoshita地域との交流

1 ねらい ニュースポーツをとoshite、地域との交流を図る。

2 実践内容

国府支援学校（9月実施、中学校との交流）

グラウンドゴルフのグループとボッチャのグループに分かれて実施した。最初に自己紹介をして、簡単な準備運動、ルールの説明等を行い、チームに分かれてグラウンドゴルフやボッチャを楽しんだ。



国府支援学校では、フライングディスクも実践しています。

- ・ 4グループに分かれて他のチームのフライングディスクを自分の陣地に運ぶゲーム
 - ・ フライングディスクを投げる練習
 - ・ アキュラシーゴールにディスクを投げ入れる練習（各々に応じた距離から）
- 運動が苦手な生徒も気軽にスポーツを楽しむことができた。



池田支援学校美馬分校（1月実施、地域のスポーツクラブとの交流）

スポーツクラブの方に生徒のチームに入ってもらい、1チーム3～4名の8チームに分け、1ゲーム2イニングで2ゲーム行った。最初に練習を行い、カラーリングの上手な投げ方を教えてもらった。投球の間に、得点の付け方や確認の仕方を教えてもらった。



生徒たちは、自分たちが通う学校の近くに交流先があることを知り、地域理解へとつながった。

(成果)

- ・ 同じ目標に向かって互いに協力したり、声を掛け合ったりする様子が見られた。
- ・ ルールがとても簡単なので、誰もが抵抗なく取り組むことができた。
- ・ 障がいがあるなしに関わらず、良いプレイには拍手をしてお互いに認め合うことができた。
- ・ チームで活動するので、友だちや交流先の方と話したり、協力したりすることができた。
- ・ 地域の方々との関わりの幅を拡げることができた。

(考察)

用具の充実や教員のスポーツに関する知識、また支援学校に応じたルールでの活動実施等の課題もあるが、取組可能なスポーツとして、ボッチャやフライングディスク等のニュースポーツをはじめ、ソフトボール、ティーボール等の球技も考えられる。今後も、さまざまなスポーツをとoshite、互いに認め合い楽しみながら、地域との交流をさらに深めていきたい。

2 芸術・文化活動

(1) 専門家との連携とアート作品制作

- 1 ねらい 外部専門家との連携によるデジタルアート等の作品制作を通して児童生徒の芸術的才能の開花を促す。
- 2 実施校 徳島聴覚支援学校，板野支援学校，ひのみね支援学校，鴨島支援学校，みなと高等学園
- 3 講師 (徳島聴覚支援学校，板野支援学校，鴨島支援学校，ひのみね支援学校)
四国大学 生活科学部
生活科学科 デザインコース 准教授 上野 昇 氏
(みなと高等学園)
徳島県 LED バレイ構想推進協議会
地域ブランド化部会委員 藍谷 壮一郎 氏
- 4 期 間 令和元年 9 月から令和 2 年 2 月まで
- 5 場 所 各特別支援学校及び四国大学
- 6 活動内容

徳島聴覚支援学校（1 月に実施，場所：徳島聴覚支援学校，対象：小学部児童 7 名，）

「プロジェクション・ライブペインティング」

プロジェクションマッピングとライブペインティングを合わせた作品づくりで，上野先生作成の魚・とり・かめ・かたつむり・うさぎ・とんぼ・蝶々のような幾何学的で動く生物のプロジェクションマッピングの背景をパフォーマンス用紙（1.55m×2.7m）に共同で制作した。

「生物たちをお世話しよう。生物たちが過ごしやすい環境はどんな環境かな。」と考えながら，ポスターカラーを使ってどんどん描いていった。最初に，子どもたち 7 名でそれぞれ生物のお世話係を決めて，前半は自分のお世話係の生物の背景をそれぞれ作った。後半になると，自分のお世話係以外の場所にも背景を描いていった。随時，上野先生から「楽しく」「集中して」と声かけがあり，子どもたちは想像を膨らませて，大変ユニークな背景を制作することができた。



板野支援学校（1月に2回実施，場所：四国大学，板野支援学校，対象：高等部生徒5名）

「手描きイラストを元にしたスタンプ」作成，「3Dペンを使用した立体作品」制作

手書きイラストをスキャンして修正加工する作業は，イラストレーションソフトを使い慣れている生徒たちにとってはスムーズに取り組める課題であった。3Dペンを使った制作は，自由度が高く手軽に取り組むことができた。想像以上の仕上がりで驚く生徒の姿も見られた。



ひのみね支援学校

（11月～1月に実施，場所：ひのみね支援学校，対象：小学部中学部高等部の児童生徒）

・小学部2組（3名）「スタンプづくり」

スタンプのできる過程のお話を聞いたり，どんなスタンプができるか見たりし，実際のスタンプの材料を触って感触を確かめた。上野先生や教員と一緒に，自分の名前を書いた。



・小学部3・4組（5名）「顔スタンプづくり」

上野先生が，どのようにして3Dのスタンプができるのかを説明してくれた後，スタンプの凸凹の感触を手で触って確かめた。その後，紙やすりを使って教員と一緒にスタンプの表面をこすって仕上げた。完成したスタンプの試し押しをし，上野先生に見てもらった。



・小学部5・6組（5名）「スタンプづくり」

- ① 上野先生より，作り方の説明などを受ける。
- ② できたスタンプ部分と持ち手を貼り合わせてスタンプの組み立てをする。
- ③ 試し押しをしてできあがりを確認する。
- ④ 絵の具を塗り，スタンプを押す。

・小学部7組（4名）「顔スタンプづくり」

- ① 上野先生が，どのようにして3Dのスタンプができるのか，作ってきたかの説明を聞く。
- ② 自分の顔スタンプの凸凹の感触を手で触って確かめる。
- ③ 紙やすりを使って顔スタンプの土台を教員と一緒にやすりがけをしていく。
- ④ 削った土台に顔スタンプをくっつけて完成させる。
- ⑤ 完成した顔スタンプの試し押しをする。上野先生に仕上がりを見てもらう。

・小学部 8・9・10 組（教員 2 名）「オリジナルキーホルダー」作成

訪問教育の児童は直接指導を受けることが難しいが、ぜひ間接的にでも、との思いで、このプロジェクトに参加。児童同士も会うことが難しいが、共同作品のこいのぼりをもとに、3D プリンタで出力して児童が色を塗り、オリジナルのキーホルダーを作成した。児童の作品を 3D プリンタで出力する方法、作品を切り絵のアプリで加工する方法、実際に 3D プリンタで出力する方法について、実践しながら教員が指導を受けた。

・中学部 1・2 組（4 名）「小物入れ」作成

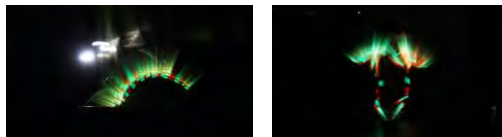
- ①各自 5 枚の写真の中から好きな写真を選び、PC ソフトを使って白黒の陰影がついた図案にする。
- ②好きな色（紫、青、黒）を選び、図案を 3D プリンタで 3D 写真パネルとして出力。
- ③白紙にパステルで色をつけ台紙を作る。
- ④ 小物入れのフタ部分に台紙と 3D パネルをスプレー糊で貼り付け完成。

・中学部 2 組（6 名）「ランプシェード」作成

- ①各自 3 枚ずつ思い出や好きな写真を選び、PC ソフトを使って白黒の陰影がついた図案にする。
- ②図案を 3D プリンタで 3D 写真パネルとして出力。
- ③三角柱のランプシェードになるよう、上下三角の型枠も 3D プリンタで出力。
- ④内側に透明瓶を入れて、3 枚の 3D 写真パネルと型枠を組み立て、底に LED ライトのコースターを置き完成。

・中学部 2 年 1 組（5 名）「光のアート」作成

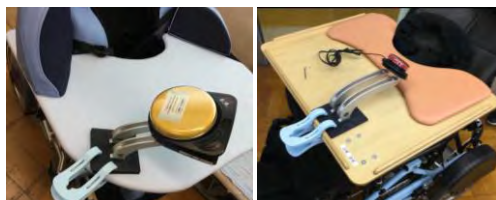
- ①コンピュータ室を暗室にして活動。
- ②ペンライト、懐中電灯、スティックライトを使用。
- ③生徒が自分で手を動かしたり、教員と一緒に動かしたりして、光の動きを表現する作品を作る。



・高等部 1・2 HR（5 名）「工業デザイン作品」作成

＜スイッチャーアーム＞

コミュニケーションツールとして活用しているスイッチを使いやすくするため、スイッチャーアームを制作。手の届きやすい位置や角度に自由自在に変化できるので、コミュニケーションの幅に広がりがある。



スイッチャーアーム 大

スイッチャーアーム 小

＜ゆびひら〜く＞

手指を広げるための「ゆびひら〜く」を制作。日頃、手指を握りこんでいるので、指を広げることで、手の活動がやりやすくなる。



くらくらくきれ〜る>

バネばさみを改良。バネばさみが動かないように固定し、押しやすいように押す面を広くした。支援が減り、自分で切る感覚を感じられるようになる。



・高等部3・4HR（4名）「切り絵あんどん」作成

①制作の手順についてお話を聞く。

②台紙となる用紙をはさみで切る。生徒によってカスタネットばさみを使用。

③切り取った台紙にスプレー糊で切り絵を貼り付け。

④箱にライトを付けてできあがった作品を鑑賞。



みなと高等学園

（12月～1月に4回実施，場所：みなと高等学園，対象：生徒8名）

「世界遺産」をテーマにしたLEDアート作品の制作

①12月9日 LEDについての基礎知識を学習。LEDの色々な光を体験し、自分の作りたい作品のイメージを広げた。またLEDに抵抗をはんだ付けする体験も実施。

②1月10日 LEDオブジェ制作のワークショップを体験。LED光の効果的な扱い方について学ぶ。また、それぞれに描いてきた世界遺産の「モアイ」をイメージしたスケッチを基にして、LEDの取り付け方について指導を受ける。



③1月27日 大まかにモアイの本体を作り、LEDを取り付ける配線を作成。

④1月29日 実際に配線を本体に組み込み、配線の修正や本体内部の加工。

※その後、配線を終え、本体を粘土で覆って着色し、台座に取り付けて完成。



7 成果と課題

（成果）

<プロジェクション・ライブペインティング>

・普段の図工の授業では難しいが、専門家との連携によって、プロジェクションマッピングやライブペインティングという大がかりな制作を経験することができ、共同で大きな作品を作るといふ、またとない機会になった。

<3Dプリンタによる作品制作>

・スタンプの材料に触ったり、スタンプを押したりすることや、自分が書いた名前が、スタンプになるということを経験することができた。

・自分の顔のスタンプができる様子をTV画面で見ている、スタンプの凸凹を手の平で確かめる、スタンプをどんどん押す等、関心を持って作品づくりに取り組む児童の様子が見られた。

- ・自分専用の顔スタンプを作ることができ、今後いろいろな場面で使えるので良かった。
- ・持ち帰りが難しい共同作品をキーホルダーという形で児童に返してあげることができた。
- ・生徒が授業で活用できるものをデザインしたので、今後、手の動きやコミュニケーション面で自発的な関わりが期待できる。
- ・修学旅行の思い出に残る写真での作品づくりで、生徒にとっても振り返る時間となった。鑑賞では、光の方に集中して視線を向けることができていた。柔らかい優しい光で見やすかった。

<光アート>

- ・生徒の自発的な動きが促される活動となった。自分たちの動きによって作品を作ることができ、それを通して、周囲から賞賛等を感じるよい機会となった。

<LED アート>

- ・様々な LED に実際に触れることで、身近にある LED への理解が深まった。
- ・自分たちで自主的に決めて取り組みスケッチした主題を現実化することで、デジタルアート作品制作をより身近で取り組みやすいものとして捉えることができた。

(児童生徒の感想)

<プロジェクション・ライブペインティング制作>

- ・いろいろ描くことができて楽しかった。
- ・いっぱい絵が描けてうれしかった。
- ・友達がおもしろい絵を描いていて楽しかった。

<3D プリンタによる作品制作>

- ・かわいいものができた。使いたい。
- ・3D ペンを使った活動をもっとしてみたいと思った。

(考察)

これまでの取組において、児童生徒からは、自分のデザインによる作品を制作できた喜び、新たな素材や手法へのチャレンジによる驚きや友だちと協同して制作する面白さ等の声が聞かれた。制作過程そのものを楽しむとともに、作品の完成により達成感を味わうことができたことが成果である。

今後の作品制作について、教員からは、今後の3D プリンタの活用のために、継続して指導を受けたい、学校だけではできないような作品作りに取り組みたい等の声がある。絵画や立体作品等の従来からの手法に加えて、児童生徒の希望や児童生徒が主体的に取り組み、豊かな発想を具体化していける作品制作に向け、今後もデジタルアート等の専門家と連携を図り、幅広い制作活動を展開していく必要がある。

(2) 作品制作をととした地域との交流

1 ねらい アート作品制作をととして、地域との交流を図る。

2 実践内容

鴨島支援学校 (9月, 12月, 1月実施, 四国大学の学生と交流・共同制作)

(1回目) 学校キャラクターである「かも先生」を中心とした四つのキャラクターをデザインした生徒がプレゼンし, このうち二つの「かも先生」と「かもたん」を着ぐるみにすることを説明。

(2回目) 学生たちと共にかも先生の型紙に沿って, ウレタンを切り, 接着。

(3回目) 美術科の授業内で制作した指揮棒等の小道具を持参。着ぐるみの大きさと車いすの接合を確認。生徒は, 自らがデザインしたキャラクターが立体化することで, デザインする喜びを感じることができた。



ひのみね支援学校 (6月実施, 高校3校と交流)

「生命と自然」をモチーフにした作品を四つの班に分かれて制作した。それぞれが持ち寄った小物等を貼り付けたり, 色を付けたり, その場で加工したりして色とりどりの作品を完成させた。完成した作品は, 4校それぞれの学校祭にて展示した。



阿南支援学校 (11月実施, 中学校と交流)

8クラスに各1～2名ずつ中学校の1年生の生徒たちが入って活動をした。学校祭で使う道具の製作や販売品や展示作品の制作を一緒に行った。はじめはお互いに緊張した面持ちだったが, 一緒に制作活動を行うことで少しずつ打ち解けてきて, 楽しく活動することができた。



(成果)

- ・それぞれがアイデアを出し合いながら, 自主的な活動を行うことができた。
- ・打ち解けやすく, 和気あいあいとした雰囲気の中で, 楽しく制作活動ができた。
- ・積極的に関わり, 互いのいいところを見つけたり, 協力したりすることができた。
- ・協力して作品を作ることで, 自分の役割を果たし, 共有感が持てるようになった。

(考察)

互いに理解しあい, 楽しく交流を深めることができる取組であり, これからも, 平面や立体を問わず, 共同作品, エシカル作品などさまざまな作品づくりへのチャレンジが可能である。

(3) 地域におけるアート展の開催

1 ねらい 地域での作品展示をととして、地域に向けた発信について検討を行う。

2 実践内容

徳島聴覚支援学校

(期間)

- ・第1回 令和元年11月25日～12月6日 幼稚部
- ・第2回 令和元年12月9日～12月20日 小学部
- ・第3回 令和2年1月14日～1月24日 小学部
- ・第4回 令和2年2月27日～3月14日 中高等部

(展示場所) キョーエイ二軒屋店 店舗入り口

(成果)

保育や授業で制作した絵や工作等の作品の展示を行った。自分たちの作品がたくさんの人に見てもらえることが制作の意欲へとつながっており、児童からは「みんなが見てくれてうれしい」との声も聞かれた。また、地域への啓発の機会となった。



国府支援学校

(期間) 令和2年1月6日～令和2年1月22日

(展示場所) キョーエイ国府店 店舗入り口

(成果)

スーパーマーケットに展示したことで、近隣の方々に、買い物にきた際に気軽に作品を見ていただくことができた。入ってすぐの場所にあったので、多くの方が足を止めて見てくれた。普段生徒の作品を見る機会のない方にも本校の取組を知っていただくいい機会になった。

生徒から、「両親や近所に住む祖父母と一緒に見に行った。とてもきれいだった。」「どの作品もとてもきれいだった。」「自分の作品があってうれしかった。」との感想が聞かれた。



阿南支援学校

(期間)

令和元年11月5日～15日

(展示場所)

キョーエイ上中店

(成果)

キョーエイ上中店は、普段から「はっぴいエコ（ごみのリサイクル）活動」を通して中学部と交流のある店舗であり、学校から一番近い地元スーパーで行われる展示ということで、日頃子ども絵に触れる経験が少ない地元の方々や保護者に、買い物のついでに絵を観ていただき、特別支援学校の存在を知っていただく良い機会となった。



池田支援学校

(作品搬入) 11月12日, 11月22日, 1月15日, 2月10日

(展示場所) 近隣の商業施設(サンシャイン池田・ダイソー三加茂店)

(成果)

地域の量販店での展示により, 家族や地域の人から関心を寄せてもらった。声をかけてくれる人もあり, 児童は成就感を味わうことができた。



みなと高等学園

(期間) 令和2年2月27日～3月5日

(展示場所) キョーエイ小松島店 1F 入口

(成果)

アート部の生徒が制作した写真作品10点を展示。作品の搬入飾り付けはアート部(写真部門)の生徒が行った。



学校の近くのスーパーで, 買い物学習や現場実習・調理実習・宿泊学習の買い出しなど, 日頃から生徒がよく利用しているスーパーであり, 搬入時から地元の人たちが話しかけてくるなどの反応が多くあった。作品の搬入を生徒自身が行ったり, 自信作の発表体験をしたりすることによって, 生徒の制作活動意欲の向上に繋げることができた。

池田支援学校美馬分校

(期間) 令和2年2月27日～3月5日

(展示場所) 道の駅「みまの里」観光交流センター

(成果)



学校で作成した作品, 生徒が考えた内容を取り入れて展示した。(10周年記念共同作品, 脇町高校書道部とのコラボ作品, 各種ポスター, エコバッグ・ランチョンマット・コースター・ポーチ)

生徒が作品制作や共同作業をとおして自分の役割がわかり, その役割を友だちと協力して果たすことができた。また, 地域の方々に来ていただけるよう, 生徒がポスター・チラシ・旗等を制作し, 展示にも創意工夫して取り組むことができた。

(考察)

「みんなが見てくれてうれしい」と何度も店舗を訪れる児童がいたり, 「作品展に出してよかった」「もっと多くの人に作品を見に来てもらいたい」等の前向きな感想が児童生徒から聞かれたりした。搬入や展示作業等, 児童生徒の活動に繋がられる要素がたくさんある活動である。見てくれたお客さんから, 作品の作り方などの質問を受け, 関心をもってもらえる場面もあり, 地域住民の皆さんの感想を聞く機会として, アンケート等で多くの感想を聞けるように工夫をしていきたい, との意見もある。特別支援学校の取組を発信する機会として, 展示の期間・方法・児童生徒の参画等, さらに創意工夫を加えることができ, 今後も地域と関わりながら継続していける取組といえる。

(4) 四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動における作品の展示と配布

1 目的

特別支援学校の児童生徒が持つ技能や豊かな感性を生かした作品等を四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動において展示したり，お遍路さんに配布したりすることをととして，各特別支援学校の特色ある取組の推進や児童生徒の豊かな表現力の向上を図るとともに，文化・芸術分野における障がい者の才能に対する理解と活躍の機会拡充を推進する。

2 実施内容

四国八十八ヶ所霊場札所が近くにある特別支援学校5校で，次のとおり実施。

学校名	活動場所	実施日	参加生徒数
板野支援学校	第三番札所 「金泉寺」	令和元年 6月11日(火) 10:00～11:45	高等部 6名
		令和元年 9月17日(火) 10:00～11:45	高等部 5名
		令和元年 10月15日(火) 10:00～11:45	高等部 5名
		令和元年 12月10日(火) 10:00～11:45	高等部 5名
国府支援学校	第十四番札所 「常楽寺」	令和元年 6月13日(木) 10:00～11:30	高等部 7名
		令和元年 6月14日(金) 10:00～11:30	高等部 7名
		令和元年 10月24日(木) 10:00～11:30	高等部 6名
		令和元年 10月25日(金) 10:00～11:30	高等部 6名
池田支援学校 美馬分校	第八番札所 「熊谷寺」	令和元年 10月10日(木) 10:00～12:00	高等部 9名
阿南支援学校 ひわさ分校	第二十三番札所 「薬王寺」	令和元年 10月23日(水) 10:00～11:10	高等部 9名
		令和元年 10月30日(水) 10:00～11:10	小中高 13名
鴨島支援学校	第十一番札所 「藤井寺」	令和元年 9月27日(金) 9:40～11:00	小高 6名
		令和元年 10月16日(水) 9:40～11:00	小中 5名
		令和元年 10月21日(月) 9:40～11:00	中高 5名

お接待で展示・配布した作品の例（しおり，はがき，香り袋，コースター，ストラップ等）



板野支援学校

牛乳パックをリサイクルした「しおり」や「はがき」、縫製の技能を生かした「香り袋」を展示、配布した。

お接待活動を4回実施し、計189名に作品を配布した。



国府支援学校

牛乳パックをリサイクルし、生徒がデザインして仕上げた「しおり」や「はがき」をお遍路さんへメッセージを加え、配布した。

お接待活動を4回実施し、計51名に作品を配布した。



池田支援学校美馬分校

生徒が縫製の技能を生かして製作した「小物入れ」、「コースター」等を展示、配布した。

お接待活動を1回実施し、計27名に作品を配布した。



阿南支援学校ひわさ分校

ご当地自慢のウミガメをモチーフにした「ストラップ」や牛乳パックをリサイクルして作成した「しおり」を展示、配布した。

お接待活動を2回実施し、計63名に作品を配布した。



鴨島支援学校

牛乳パックをリサイクルして作成した「しおり」や生徒がデザインしたイメージキャラクターの「キーホルダー」等を展示、配布した。

お接待活動を3回実施し、計55名に作品を配布した。



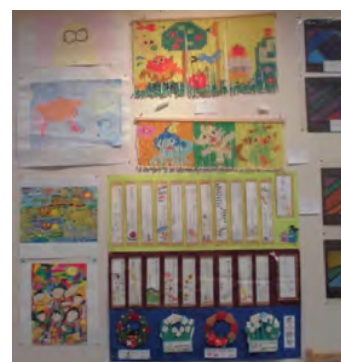
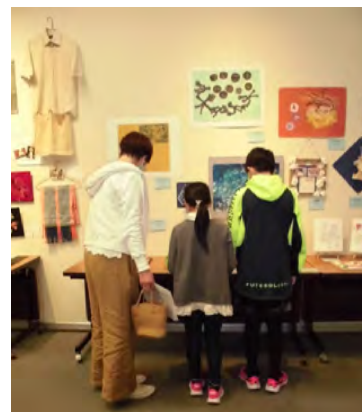
3 成果と課題

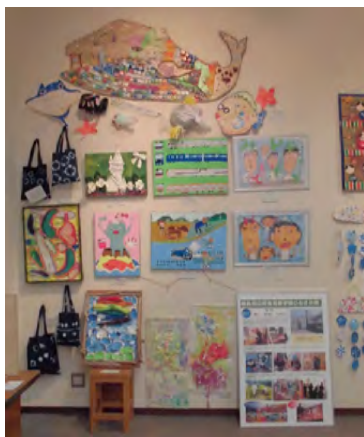
取組成果として、実施校が1校拡大し、より多くのお遍路さんに作品を配布したり、例年より作品を展示する回数を多くしたりすることができた。お遍路さんから感謝の言葉をかけていただいたり、作品についての感想をいただいたりすることで、児童生徒が達成感や成就感を感じることができた。また、特別支援学校の取組を県内外へ発信することができた。

今後は、四国八十八ヶ所霊場札所が近隣にない特別支援学校においての取組拡充に向け、学校間の連携による作品展示や配布をどのように計画・実施していくかが課題である。

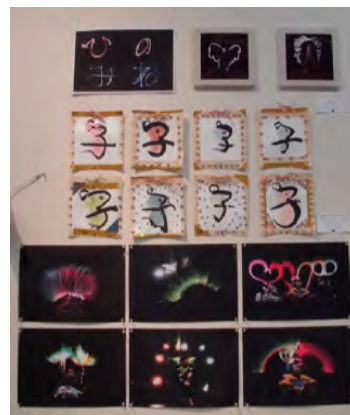
(5) アート展の開催

- 1 ねらい 県内の特別支援学校の幼児児童生徒のアート作品によるアート展を開催し、来場者に対して、それぞれの特別支援学校での取組を発信し、各学校の特色ある取組を紹介する場とする。併せて、Special プロジェクト 2020 体制整備事業で取り組んだエシカル作品やボッチャの活動について紹介する。
- 2 名 称 第3回とくしま特別支援学校「きらめきアート展」
- 3 参加校 県内の特別支援学校及び分校 12 校（鳴門教育大学附属特別支援学校を含む）
- 4 日 程 令和2年2月20日(木)～2月24日(月)
- 5 会 場 徳島県立二十一世紀館 1階
多目的活動室
- 6 展示内容 共同作品、個人作品あわせて737点
(絵画、立体、手工芸、書道、エコ作品、デジタルアート、陶芸、木工作品、学校紹介パネル等)
- 7 入場者 1,423名
- 8 同時開催 アール・ブリュット再考3展,
「障がい者アーティストの卵」発掘展
(ともに徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター主催)
- 9 内 容 (アート展の様子)





デジタルアート作品



エシカル作品 (昨年に続き, 会場にコーナーを設けて展示)



10 来場者アンケート

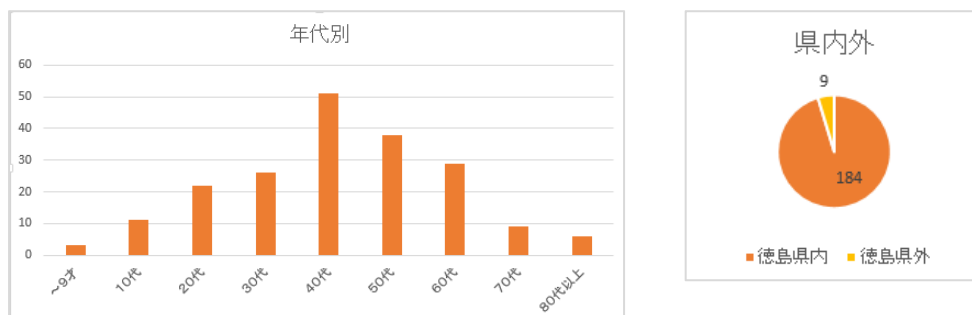
【調査概要】

期間：令和2年2月20日（木）から2月24日（月）まで

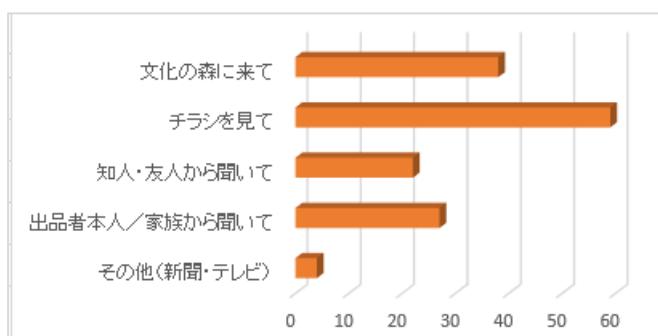
場所：県立21世紀館 多目的活動室（アート展会場内）

回答者数：195名

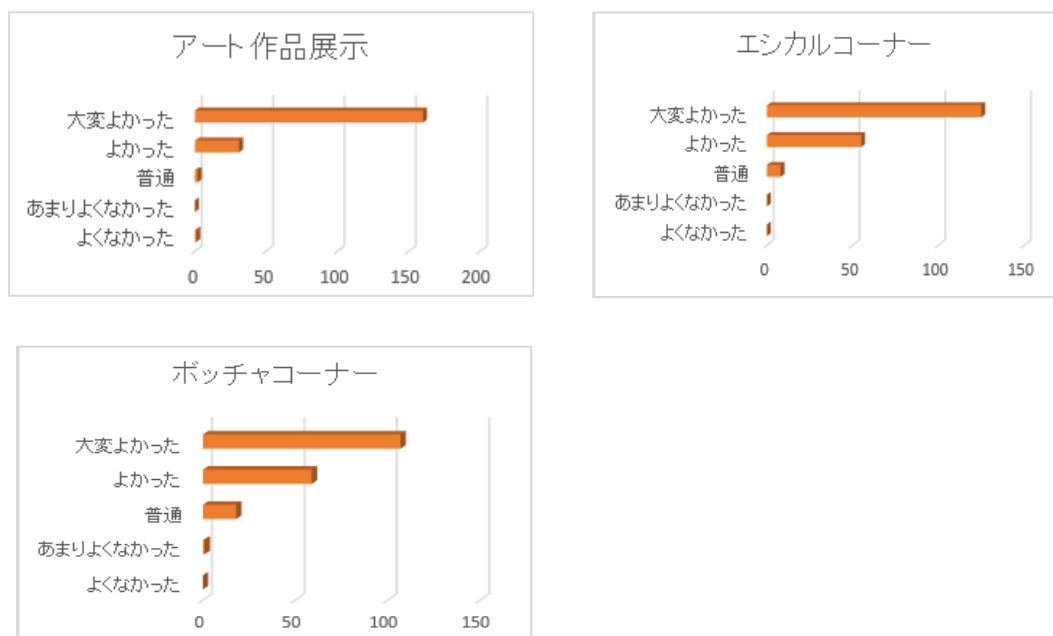
○回答者の属性



○アート展の情報入手方法



○「きらめきアート展」の感想



1 1 来場者からの意見等

(改善点を含む 意見等)

- ・さわりたいのがいっぱいあった。
- ・もっとたくさんの人にアピールできたらよい、と思います。
- ・学校紹介がもう少し大きい方がわかりやすいかな、と思いました。
- ・各学校のことをもう少し詳しく知りたい。
- ・展示も工夫が見られ、楽しめたと思う。年齢等も書かれていて参考になった。
- ・県内他の地域でも開催されると、近くで足を運びやすいです。
- ・ボッチャを実際に体験してみたい、と思った。（体験コーナーがあるともっと良かった。）
- ・世の中の人たちに、皆とてもよい感性を持っていること、頑張っていることをもっと知ってほしい。良い催しだと思います。今後も続けていってください。

(感想等)

- ・来年も（その先もずっと）ぜひ実施してほしい。楽しみにしています。
- ・自分にないものを発見しました。
- ・どの作品も、子どもたちが一生懸命作っている様子が浮かんできました。
- ・色使い、アイデアなど、とてもあたたかな心になります。
- ・色彩感覚がすばらしい。細かく、根気よく、才能あふれている。
- ・学校で、こんなにステキな作品を作っていたことを知り、とても感動しました。
- ・全体的にレベルが高くて驚きました。創作意欲をかき立てられる作品が多くありました。
- ・自由な作風が素敵でした。自分も何かやってみよう、という気になりました。
- ・県内に支援学校がたくさんあるのを初めて知り、皆、頑張っているのが良くわかりました。
- ・ICT 活用（プロジェクションマッピング、デジカメ連写の作品等）、LED 活用、エシカル（竹関連）、どれも大変すばらしい。これからの特別支援学校の活躍が楽しみです。
- ・子ども達がのびのびと表現できている作品展示のアート展は、今年はやまなみ工房の作品展や講演会と同時期に開催していただけて、とても良かったと思います。毎年楽しみにしています。

1 2 成果と課題

(成果)

昨年に続き、県内全ての特別支援学校が参加し、737点の特色あふれる作品により、アート展を開催することができた。特別支援学校5校1分校より見学があり、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター主催のアート展との同時開催により、多くの来場者があった。広く県民の方々にも特別支援学校の取組を知っていただくよい機会となった。

(課題)

特別支援学校の作品や取組を発信する機会の拡充に向けて、地域におけるアート展の活用やWebを活用した作品紹介の方策をさらに検討していきたい。

3 活動の成果と課題

本県の特別支援学校におけるスポーツ活動と芸術・文化活動の振興を図るため、本事業を実施した。

スポーツ活動では、国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校『体育・スポーツ』実践指導者協議会」による指導者の養成及び徳島県障がい者スポーツ協会の協力のもと、県内の特別支援学校全校でボッチャを実践するとともに、特別支援学校間でボッチャ交流会を行い、スポーツによる交流を促進した。また、地域の学校との交流及び共同学習の場にボッチャやカローリング等のニュースポーツを取り入れ、スポーツを通じた交流の推進に取り組んだ。一部の特別支援学校では、講師招へいによる活動を実施して、スポーツ活動の充実を図ったところである。

芸術・文化活動においては、専門家の指導により、児童生徒の豊かな発想によるデザインを3Dプリンタで出力するデジタルアート作品制作や、地域の学校や大学生との交流による共同作品制作にも取り組み、表現の幅をひろげるとともに、県内全ての特別支援学校が一堂に会した「きらめきアート展」の開催や、四国霊場札所での作品披露等により、児童生徒の新たな才能開花を目指すとともに、県民等への理解啓発を行ってきた。また、学校近隣のスーパーマーケットのスペースを活用して作品の展示を行い、地域住民へ、特別支援学校における芸術・文化活動の取組の周知啓発を行ってきた。作品をとおした発信により、賞賛や今後の継続、発表の機会拡大を期待する声が聞かれている。

2020年は、これまで取り組んできた成果を活かしつつ、ボッチャをはじめ、屋外で行うニュースポーツも含めて、スポーツをとおした地域との交流をより一層深めていく必要がある。また、節目の年として、関係機関とのネットワークを活用し、ボッチャ交流会等のスポーツイベントを開催し、更なるスポーツ活動の振興を図りたい。

芸術・文化活動においては、新しい作品制作に取り組み、全校で、また各校が地域に密着してアート展を開催するとともに、リサイクル素材等のエシカル素材を用いた作品を地域の児童生徒と共同制作するなど、障がいのある児童生徒から、人や社会・環境に配慮した「エシカル消費」について積極的に発信することに加え、地域との共同作業を通して、持続可能な社会づくりについての理解啓発につなげることが重要である。

特別支援学校が、地域とともにスポーツと芸術・文化の活動を進められるよう、今後も各方面との連携を深め、障がい理解の啓発や、心のバリアフリーの推進に取り組んでまいりたい。

令和２年度 スポーツ庁委託事業
「Special プロジェクト 2020 体制整備事業」

徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業
令和２年３月３１日発行

徳島県教育委員会特別支援教育課